



### 長女と私 新潟市に通った九年間

小日山厚子さん(大通一丁目・主婦 38歳)

ある日、郵便受けに一枚のはがきが入っていました。本紙の原稿依頼です。一瞬なぜ私に!? と思いました。でも、このような機会がなければ自分から投稿しようとは思いません。いろいろと悩んだ結果、ペンを取ることにしました。私には高二と小六の娘がいますが、長女に關して書きたいと思います。

願みると九年前のこと。私たちが家族はマイホームを求めて新潟市から当地へ引っ越ししてきました。白根市はもとと私が生まれ育った所。何の抵抗もなく、実家も近くなるし、いろいろな都合も良いと思っていました。しかし正直言って、転居は長女にとってマイナスでした。



織原 利恵ちゃん(二の町・3歳)

### 今年から保育園 すてきな建物でうれしいな

利恵ね、三歳になったから、今年から白根保育園に行くんだよ。新しくてかわいい保育園で、すごくうれしい。

約束したの。一緒に遊ぼうって。友達がいっぱいできるといいな。東京のおばちゃんから赤いキティちゃんのかばんを買ってもらったし、めぐみちゃんのところから洋服ももらったよ。ほかにいろいろもらったよ。

早く行きたいな！ 楽しみなだ！

日本の名湯なりと市販せる  
蝦夷の湯花の白き湯に入る  
木瓜の鉢したしき翁竹貫ひ受け  
今朝咲き初めし良寛軸の前  
夜べよりの雨に冴えたる苔の庭

6月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係(☎373-2111③333)です。

### 原稿募集



### デイサービスセンターの 介助ボランティアに参加して

青木きよ子さん(大通一丁目・無職・65歳)

白根市に待望のデイ・サービスセンターができました。本紙八月号に介助ボランティア募集もありましたから、早速申し込みました。人のために何かをやり、それがいつか自分に返ってくる。また、自分のためにやることが人の役に立つことを知り、元氣なうちにやりたいことをやって、常に前を向いて生きていきたいと思いました。

私もできるさやかな介助。話し相手ではありませんが、センターに二度、三度と通ううちに分かったスタッフのひたむきな献身ぶりはさすがです。家族的な何とも言われぬ気楽なホッとした。

なムード。肉親も及ばぬ笑顔でのさりげなく温かい言葉のやり取り。何よりも人生の先輩に対して「おじいちゃん、おばあちゃん」とは言いません。フルネームで呼び掛けます。

老いることは治ることのない病気のようなもの。寝たきりの義父を一人でみてきた私の、あの当時の絶望的なイライラした焦りは何だったのか。こんなサービスを受けていたならと、今更ながら教えられたことばかりでした。

センターには一日に五人、月に四十人以上の人が車いすです。九十四歳の人から、大部

### 写経を学んで 心の豊かさを実感



渡辺 省三さん(小蔵子・農業・61歳)

「大般若経六百巻」の浄写を達成された鶴巻湘越先生以下会員も広く、深く精進しています。近年、全国的にも写経に親しむ人々で、静かなブームのようです。本当の心の豊かさを実感できる、実益のある趣味として一生付き合っていくつもりです。



格の幾つ置きて華やぐ  
おめでどう今日はひ孫の誕生日  
両親ともども喜び語りぬ

川柳

俳句

春の雪がスズクともりをり  
豊水サグ子  
啓蟄の虫の如くに町へ出す  
公衆 雪夫  
目貼りして小茶の間といふ隠居部屋  
成沢 素明  
恋猫の中にわが家の三毛もあし  
五十嵐寛吾  
燃ゆる槽巻かず見てをるまかな  
猪股 南魚  
剪定やかぶり朝れたる目出し帽  
山田 孝  
田の水にピタリ張りつく薄氷  
小林 すみ  
三百のスワン遊ばせ田の眠る  
安沢 飛浪  
後戻りして雪私ふ母の墓  
吉川 八重子  
面だちの娘に似たる雛飾る  
小林 光子  
以上大風会

川柳

俳句

俳句

俳句